

千里地理通信

関西大学地理学研究会会報 第74号

Newsletter of Geographical Institution, Kansai University

Contents

Page 1 ……

巻頭言

イギリスのバス事情とその魅力
伊東 理

Page 2 ……

卒業生だより①

“高齢者”の仲間入りをした今、思うこと 大石幸夫

Page 3 ……

卒業生だより②

「好き」が仕事にならなくても
土岐里美

Page 4 ……

実習調査報告

土佐への実習調査
西田元気

Page 5 ……

秋の日帰り巡検

草津巡検レポート
薬名友太

関西大学地理学研究会および同窓会の再生検討会議開催

Page 6 ……

関西大学地理学研究会会則

関西大学地理学同窓会会則
院生・学部生の業績

Page 7 ……

教室だより

Page 8 ……

随想

河野通博先生の思い出

小松原 尚

Page 2~4 ……

2015年度

卒業生・修了生からの一言

巻頭言

イギリスのバス事情とその魅力

伊東 理

車を運転できない私は、1人で海外調査や旅行をするには、公共交通に依存するしかありません。そのため、私が頻繁に訪れているイギリスで最もよく利用する公共交通手段はバスである。イギリスのバス事情とバスの魅力・楽しみ方について述べてみます。

〔鉄道に変わる National Express での広域移動〕イギリスでは、全国の主要な都市や町、国際空港などを結ぶコーチ Coarch と呼ばれる全国高速長距離バスネットワークが完備しています。その代表的企業が National Express 社です。鉄道よりは時間がかかりますが、定時性に優れた割安で快適・安全な交通手段で、一人旅には荷物ともども安全に目的地まで運んでくれる大変有難い交通手段です。最も私がコーチを利用するのは帰路のヒースロー空港までの旅で、うっかり寝てしまっても空港ターミナルまで確実に運んでくれます。

コーチの運行は主に高速道路 (Mortorway) を走り、いくつかの都市・町に立ち寄るために一端高速道路から出て、一般道路で各都市や町の中心部のコーチ駅に着きます。そして再び高速道路に入るか、そのまま一般道路を走り、別の都市への移動を繰り返して、最終目的地に着きます。コーチ駅 (Coarch Station) は、一般に鉄道駅 (Railway Station) よりも都市の中心部 (City Centre) に近接した位置に設置されるので、極めて便利です。

コーチの魅力は、座席の位置が高く車窓に展開する景色がワイドでかつ多様なことにあります。鉄道からの景色はいわば単調な「遠景」ですが、コーチからの景色は鉄道よりもズームアップされた「中景」で農地や建物などの実態がよく分かります。走行する道路には地名表示も多く、地図と現地との詳細な照合が可能です。さらに都市の中心部までの一般道路の往復によって、各都市の都市構造や市場町の様子などもおおそ知ることができ、人々の生活、民族構成、住宅地の景観といった「近景」も大いに楽しむことができます。

〔都市内部の路線バスを楽しむ〕都市 (圏) 内の細かな地域の実態をみるためには、路線バスに勝る公共交通手段は無いでしょう。路線バスに乗って楽しむには、いくつかのコツがあります。お薦めアイテムは、①一般にデイルライダー (Day Rider) と呼ばれる「1日バス乗車券」を利用すること、および②バスターミナル・交通センター・観光案内所などに置かれているバスルートマップです。ルートマップには各バスの運行ルートが地図の道路に沿ってバス番号が記載されているので、それと照合しながら車窓から景観をみていくと、都市の実態が大変よく分かります。ことにダブルデッカー (2階建て) バス2階の一番前の席に座ると、ものすごく眺めがいいです。私の街中写真はこれで撮ったものが多いです。

次に、バス路線設定およびバス運行様式のおおよそを理解して、目的に応じたバスの乗り分けをすることです。私の経験からすると、バス路線は①中心都市の都心部 (シティセンター) = 郊外 (周辺都市) 中心地間往復型、②郊外 (周辺都市) 中心から中心都市の中心部を經由して別の郊外中心に至る間を往復する郊外中心往復型、③リングロードと呼ばれる環状道路を走る循環型の3タイプに分けられます。また、バスの運行様式は (a) 幹線道路だけを走る幹線道路運行型バス、(b) 幹線ルートから時々外れて住宅地の内部を走り再び幹線道路に戻って主要な小売商業地区 (センター) や病院、学校などを通過して、再び住宅地の内部を走る生活密着型バスの2つに大別されます。これらの組み合わせで、合計6種類の路線バスに分けられます。そこで都市の郊外地域の様子をみたいのなら、③の郊外環状道路を走るバスを一周すると (所要時間1時間以上の場合も)、郊外の住宅地や産業立地のセクター的分化、グリーンベルトなどを観察・理解することができます。また、主要な小売商業地や周辺都市の中心部だけを手っ取り早くみたいのなら、シティセンターから幹線道路運行型バスに乗車すると、目的地に早く到着することができます。一方、生活密着型バスに乗ると、住宅地の詳細、民族的棲み分け、人々の買い物などの生活行動、等々を観察することができますが、ただし結構時間を要するので覚悟して乗車してください。

(本学教授)

卒業生

岩崎 滯

個性豊かな友達と過ごした大学生活はかけがえのない日々でした。一から丁寧に指導下さいました先生方、先輩方、本当にありがとうございました。

大丸恵梨加

最も思い出深いのは、やはり鳥取実習調査です。鳥取市の多くの方と関わった貴重な経験になりました。先生方、3年間ありがとうございました。

笠井佑太

様々な出会いがありました。その出会いにより、今の自分があります。その様々な出会いの場を与えて下さったのが、この地理学教室でした。

神崎貴充

4年間、いろいろとご迷惑をおかけしました。それにも関わらず、先生方・先輩方には多大なるご指導をいただきました。本当に有難うございました。

佐々木瑞帆

地理学ゼミでは、沢山の人の出会いやフィールドワークなど充実した学びや経験ができました。これらは私の人生の糧になります。有難うございました。

京都市立の様々な高校に38年間勤務後、夜間定時制高校の非常勤講師として地理のみを担当しています。

平成10年代には、世界史を中心に据えた選択履修の流れはより多様化し、地理を学習する生徒は少なく、履修単位数も少なくなりました。その結果、世界史の担当者は主要国・都市の名前や位置さえも理解していない生徒に、学期初めに白地図作業をさせているというのが現実です。

私は何年か前から、系統的視点を加味しながらビデオを使って世界地誌を教えています。今年は次のような反応がありました。「ヨーロッパでは街なかに車が少なく、路面電車が行き交っている。看板広告がほとんど見られない街並みのなかで、人々はゆったりと自分の人生を楽しんでいるみたい。モノが溢れ、利便性の追求ばかりの日本は、本当に豊かなの?」「東京オリンピック招致活動以来、テロや略奪・殺人が日常茶飯事の外国に比べて“安心・安全”の日本は“お・も・て・な・し”の国”であると言われるけれど、ビデオに登場した外国では通りすがりの旅人をお茶に招いたり、自宅に泊めたりしても、対価を求めている。日本の“お・も・て・な・し”は観光客に外貨を落としてもらおうためのもののように思う。」という生徒の言葉に、少しの安堵感を持ちました。

しかし、私には八年ほど前に浅はかな苦い経験があります。おしゃべりをしてビデオを見ない生徒に理由を聞くと、「そんな楽しそうなビデオを見ると、海外になどとても行けない自分が惨めになる。だから見ない。」と言いました。彼女の家庭はとても経済的に苦しかったのです。それからは生徒の興味やリズム・気持ちを予測して、番組を選択しています。ビデオ学習は教師の側もあらゆる質問に誠実に即座に対応できる力量が求められます。決められた説明、あるいは予測される質問だけに対応する勉強では自分自身の進歩もありません。

地理学習は時として、客観性を求める余り、統計を多用し数的多寡のみ重視して論じてしまうことが生徒にとって不人気な原因なのではな

いかと思っています。もっと、血の通った人間が織りなす地理を教える方法が必要なのではないのかと……。異なった文化や考え方と日常的に接することが多くなっている今日、生活や人生が豊かで実りあるものにするためには、想像力を働かせることが大切であると思います。もう少し身近な言い方をすれば、相手のことを知ること、トラブルや相手を傷つけたり、傷つけられたりすることを回避できるかもしれない。そのような観点から授業をするように心がけています。

私たちは、関大地理草創期を築かれた諸先生方に家島諸島地域調査や岸和田市都市化調査、大阪市都市調査、考古学の発掘調査、吹田市地場産業調査など様々な実践的な場を与えていただきました。先生方は何とか社会で役に立つ人間を送り出そうとして粘り強く、御指導されました。“今に対応した勉強ではなく、将来に起こるかもしれない事柄にも対応しうるものをめざす”指導を関大地理で受けてきました。そこで得た挑戦的な姿勢が今までの私の教師生活を支え、今の生きる力になっています。

“もっと速く、もっと効率的に、もっと利益率を……”という論理が社会のあらゆる場面を席捲している今日、人々は物事を単純化し、内向きの思考で「安定・安心」を得ようとする傾向があります。このような時こそ、自然と人間の関連、それらの多様性を直視する「地理学」の考え方が必要とされます。目の前のことではなく、理念をもって自ら迷い、未来に向けて進むことが必要だと思います。人間にとって本当に豊かな生活、人生とは何か。個人だけでなく、社会のみんながそうなるために自分はどうしたいのかを考えたいですね。

(1973年文学部史学科地理学専修卒業)

「卒業生だより」にご寄稿を

OB・OGの方々の近況やエッセーを掲載しています「卒業生だより」にご寄稿ください。1ページ(1600字程度)か半ページ(800字程度)の分量で、随時受け付けています。原稿の送付・照会等は事務局(奥付参照)まで。

■ □ 卒業生だより② □ ■

「好き」が仕事にならなくても

土岐 里美

2008年度卒業生の土岐です。大学時代はややマイナーな人文主義地理学に興味を持ち、フィールドワークをいっさいせず、地図も描かずに「メンタルマップとは何か」という主題で卒業論文を描きました。最近読み返したのですが、当時の苦悩がそのまま反映されており、あまりの未熟さに恥ずかしい思いでいっぱいです。

そんな私は今、新潟で電車の運転士をしています。「旅行が好きだし、鉄道もまあ好きだし」という理由で鉄道会社への就職を決め、駅員、車掌を2年半ずつ経験し、運転士試験を受け、約1年半の養成期間を経て、現在に至ります。線区でいうと、信越線と上越線、車種でいうと115系、127系、129系、485系、653系で、普通列車、快速列車、特急しらゆきなどを運転しています。



上越線を走る 115 系

地理が好きな人には、鉄道が好きな人が多いと思います。鉄道会社に就職したいと考えている学生の方も多いと思います。しかし、今の仕事で学生時代に学んだ地理のことが活かされているか？と聞かれると、答えは「ノー」です。旅行カウンターなら少しは活かされますが、運転士になると地理や旅行業の知識・資格は全く必要ありません。電車の運転操縦に必要なのは「経験と感覚」です。車両のクセやレールの状態、気候を考慮しながらどうやって運転するかを常に考えなければなりません。また、運転前に車両の点検をするのはもちろんのこと、走行中に異常があれば応急処置もしなければなりません。数学や物理が大嫌いで、ずっとそれらを

避けて生きてきたのに、まさか電気回路をたどり機械を修理する仕事に携わることになろうとは思ってもいませんでした。最初はできないことだらけで本当につらく、落ち込む毎日でしたが、少しずつ慣れて、今ではやりがいを感じながら楽しく仕事をしています。

大学時代に学んだことを活かしたい、好きな地理学を仕事にしたい、そう考えている人は多いと思います。私もそう考え今の会社に就職したのですが、現実は違いました。しかしそれでもいいのではないかと私は思います。そう割り切れるのは、地理のことをひたむきに考え、多くの人に支えられながら「学問（の影を遠目に見る喜び）」をさせてもらった4年間は、「財産」だからです。仕事には活かされなくても、私の人生を豊かにしてくれているものだと確信しています。学問からは遠ざかってしまいましたが、今でも学生時代のようによく一人旅（一人巡検）をしています。一人でどこでも行けるのも、実習調査で培われた能力だと思います。「次の休みはどこに行こうかな～」と妄想しながら、今日も元気に新潟を走っています。

（2008年度卒業 東日本旅客鉄道株式会社）



上越線越後川口駅の 115 系

「卒業生名簿」の点検・改定について

地理学研究会・同窓会活動の活性化の一貫として、「卒業生名簿」の点検・改定作業に着手する所存です。OB・OGの方々には、今後何かとご協力をお願いすることになろうかと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。

田中睦月

木庭先生との出会いは、人生の転機となりました。というのも地理学だけでなく、日常生活についても指導して頂き、人間的に成長させてもらえました。

谷口 萌

個性豊かな先生、先輩、仲間。関大だから出会えた方々との時間に感謝します。地理教室を選んでよかったと、後輩の皆さんにも思ってもらいたいです。

中谷京子

地理学で素敵な友達に会い、共に学んできたことは一生の思い出です。また、先生方には、いつも親身になってご指導頂きました。有難うございました。

八田歩美

地理学では沢山のひと仲良しになり、いろんな土地にも興味を持つようになって、旅行がとっても好きになりました。大学生活は本当に大切な思い出です。

山崎 凌

幼少から興味があった地理学を選んで良かったです。地理学がより好きになり、一人旅等の趣味も増えました。この探究心を忘れずにいたいです。

吉田美和

地理学ゼミに入り、奈良での巡検や鳥取での実習調査など、授業でしか味わえない経験が沢山ありました。先生を始め教室の皆さんお世話になりました。

梶原千朝美

長い間、不出来なことも多かったのですが、多くの方々のご教授あって今まで頑張ることができました。改めてここで感謝の意を述べたいと思います。ありがとうございました。

大学院生

王 遠航

地理教室の先生方々、皆さん、本当にお世話になりました。2年間の関西大学での楽しい学生生活を心に刻みつけて頑張っていきます。

調査初日の10月5日に高知空港に到着後、バスで宿泊する「いのスポーツセンター」に向かう。そこで昼食をとってから土佐市の市役所へ向かった。市役所での全体オリエンテーションの後に、調査班ごとに市の職員の方々にそれぞれの調査分野の基礎知識を教わり、必要となる資料や統計を受け取った。翌朝から本格的に調査はスタートした。

今回の調査は自然・防災班、農業班、紙産業班、漁業班、遍路班、生活・行動班の6班に分かれ、それぞれの項目について、土佐市にて以下のような調査を行った。

【自然・防災班】波介川の洪水浸水域についての調査と南海地震の津波への意識調査、【農業班】農家の方への聞き取りと土地利用分布の調査、【紙産業班】手すき和紙製造業者への聞き取りと見学、【漁業班】鰹節製造業者への聞き取りと見学、【遍路班】第35番札所・清滝寺と第36番札所・青龍寺でのアンケート調査と聞き取り調査、【生活・行動班】地元スーパーと高岡の商店街にて買い物客へのアンケート調査。

私が属していた漁業班では、市内の漁業関連産業従事者の方に鰹節の製造法を説明していただくなど様々な話を伺った。また実際に煮た鰹から骨を抜く作業や、完成した鰹節を手で削らせてもらう等、聞き取りだけでなく実際の作業も体験した。今回の調査ではこれまでの漁業が衰退していく中で、ウルメイワシなど新たな資

源を見つけ特産品として育成している現状が垣間見えた。

調査3日目となる10月7日の夕刻には、土佐市長、副市長、並びに多くの市職員の皆様を交えた親睦会が、地域の特産品などを販売する「ドラゴン広場」にて盛大に行われた。今回の調査を振り返ると、思えば最初から人の温かさに随分と助けられていた。忙しい中で予定をあげて頂いた市職員の皆様、仕事の途中にも関わらず聞き取りに協力して下さいました調査先企業の皆様、スーパーで快くアンケートに答えていただいた主婦の方々など、その優しさ、温かさに大変助けられた。調査を終えた最終日の10月9日、挨拶に伺った土佐市役所には市長をはじめ、お世話になった方々が出席された。挨拶の後、バスに手を振り続けてくれた市役所の皆様の優しさに触れ、土佐を離れたくない思いでいっぱいになりながらの別れとなった。

今回の調査では土佐市の皆様の協力によりとても充実した実習調査になった。この実習を通して学んだことを私たちは12月5日(土)に行われた関西大学史学地理学会にてポスター発表した。3回生の私たちにとっては初めての学会となったが、この日のために作ってきたポスターを、慣れないながらも来場者に説明した。この経験もまたとても有意義なものとなった。これからはさらに分析を重ねて実習報告書の完成を目指してがんばっていききたい。

(本学3回生)



土佐市のドラゴン広場での市役所職員の方々との交流会

2015年10月18日、私たちは滋賀県草津市へ日帰り巡検に行きました。巡検の当日、私たちはJR南草津駅に集合し、午前中は旧東海道を草津宿の方へ向けて歩いていきました。旧東海道の道幅は狭く、住宅地が続いていましたが、石碑などから、宿場であった当時の様子を垣間見ることができました。途中では新草津川や街並みを見ながら、草津市における人口や工業、商業の様相を統計から見たり、草津宿街道交流館に立ち寄って展示物を見たり、浮世絵摺り体験をしたりしました。

草津宿に到着すると、草津宿本陣に立ち寄りました。ここでは江戸時代における本陣の様子を建物や展示物から窺い、当時の面影を知ることができました。さらに館員の人から話を聞き、貴重な関札を見ました。そして午前中の最後には旧草津川を見ました。既に新草津川に改修されているので水はなく、土手が残っている以外の川の面影はほとんど見ることはできませんでした。天井川であった旧草津川の水害問題や新草津川への改修の説明をそこで聞き、その後草津駅前商店街付近で昼食をとるためにいったん解散しました。

午後からはバスに乗り、琵琶湖博物館に行きました。琵琶湖博物館では、専門学芸員をされておられる橋本道範氏から琵琶湖の生態系の話やフナズシの歴史についての考えを聞きました。話を聞いた後は博物館内を見学しました。この時は「琵琶湖誕生」という特別展示が開催されていて、大昔にいた巨大生物の骨格を見たりなどしました。常設展示では琵琶湖周辺の自然環境の変遷や

様々な時代の人の生活の展示がされていて琵琶湖と自然や人々との関わりを見ることができました。最後は再びバスに乗って、湖岸道路を沿いながら北山田の蔬菜温室団地や矢橋帰帆島を見ました。その後近江大橋を渡ってJR大津駅に着き、そこで現地解散となり、今回の巡検が終了しました。

今回草津巡検に行くにあたって様々なことを調べましたが、その時得られたのは情報だけだったので、始めは調べていてじっくりこなかった部分がありました。しかし、実際に現地に行き、実物を見たり説明を聞いたりすると、次第に分らなかつたことが理解できるようになり、興味もより湧いてきました。今回の巡検では地理学において、現地を自分の目で見ることの大切さを何よりも感じる事ができたと思います。

最後になりますが、この巡検にあたり、多くの手助けをしてくださった先生方、私たち大学院生の方々、ご助力ありがとうございました。(本学2回生)



草津宿本陣にて

関西大学地理学研究会および同窓会の再生検討会議開催

2015年12月12日(土)13時30分～15時、第1学舎4号館地理学実習室にて、関西大学地理学研究会および同窓会の再生検討会議を開催しました。近年、研究会および同窓会活動の参加者が漸減し、会計状況も悪化しています。この状況を打開すべく、前号『千里地理通信』などで卒業生諸氏に呼びかけて実現したものです。13名の卒業生諸氏にご出席頂きました。

研究会および同窓会の現状をご説明いたしました。主な協議事項は、会の運営・活動および会計の安定的徴収についてでした。前者についてはその活性化策について今後も協議していくことが確認され、また会の円滑な運営のための役員組織について検討されました。その結果、下記の役員(案)が提起され、総会の了承を得ることとなりました。会費の安定的徴収については、毎年会費を徴収すること以外に、まとめて会費を支払う方法や終身会員制度が提案され、参加者の賛同が得られました。

[地理学研究会役員]

会長：木庭元晴
事務局長：松井幸一
幹事：東出修一、貝柄 徹、小野田一幸
田中優生、伊東 理、野間晴雄
会計監査：中島 茂、矢嶋 巖

[地理学同窓会役員]

会長：渡邊 登
事務局長：松井幸一
幹事：上野 裕、茅田祐子、松田順一郎
西岡尚也、矢野司郎、辻 康男
鈴木応男、吉田雄介、堀内千加
吉兼崇博、舟越寿尚、木場隆弘
会計監査：中島 茂、矢嶋 巖

関西大学地理学研究会会則

- 第1条 本会は関西大学地理学研究会と称する。
- 第2条 本会の事務局を以下に置く。
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番
35号関西大学文学部地理学・地域環境学教室
- 第3条 本会は地理学、地域環境学の研究の発展ならびに会員相互の交流および親睦を図ることを目的とする。
- 第4条 本会は第3条の目的を達成するため、関西大学地理学同窓会と協力してつぎの事業をおこなう。
1. 総会
 2. 研究会
 3. 機関誌の発行
 4. 親睦に関する行事
 5. その他
- 第5条 本会の会員はつぎのとおりとする。
1. 関西大学文学部地理学・地域環境学（地理学）専修在校生および卒業生
 2. 関西大学大学院地理学専修生および修了生
 3. 関西大学文学部地理学教室新旧教員
- 第6条 本会につぎの役員をおく。
1. 会長 1名
 2. 事務局長 1名
 3. 幹事 若干名
 4. 会計監査 2名
 5. 本会の役員は関西大学地理学同窓会の役員と兼ねることもできる。
- 第7条 役員任期および職務は次のとおりとし、再任はさまたげない。
1. 会長（任期2年）は本会を代表して、会務を総括する。
 2. 事務局長（任期2年）は幹事会の会務方針にしたがって、会務の運営にあたる。
 3. 幹事（任期2年）は幹事会を組織して、会長、事務局長を補佐する。
 4. 会計監査（任期2年）は本会の会計を監査する。
- 第8条 2年ごとに総会を開催し、会務報告して、会員の承認を得なければならない。
- 第9条 本会の経費は会費および寄付金とその他の収入をあてる。
- 第10条 会則の変更は総会の承認を得る必要がある。

関西大学地理学同窓会会則

- 第1条 本会は関西大学地理学同窓会と称する。
- 第2条 本会の事務局を以下に置く。
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番
35号関西大学文学部地理学・地域環境学教室
- 第3条 本会は会員相互の交流および親睦を図ることを目的とする。
- 第4条 本会は第3条の目的を達成するため、関西大学地理学研究会と協力してつぎの事業をおこなう。
1. 総会
 2. 機関誌の発行
 3. 親睦に関する行事
 4. その他
- 第5条 本会の会員はつぎのとおりとする。
1. 関西大学文学部地理学・地域環境学（地理学）専修在校生および卒業生
 2. 関西大学大学院地理学専修生および修了生
 3. 関西大学文学部地理学教室新旧教員
- 第6条 本会につぎの役員をおく。
1. 会長 1名
 2. 事務局長 1名
 3. 幹事 若干名
 4. 会計監査 2名
 5. 本会の役員は関西大学地理学研究会の役員と兼ねることもできる。
- 第7条 役員職務は次のとおりとし、再任はさまたげない。
1. 会長（任期2年）は本会を代表して、会務を総括する。
 2. 事務局長（任期2年）は幹事会の会務方針にしたがって、会務の運営にあたる。
 3. 幹事（任期2年）は幹事会を組織して、会長、事務局長を補佐する。
 4. 会計監査（任期2年）は本会の会計を監査する。
- 第8条 2年ごとに総会を開催し、会務報告して、会員の承認を得なければならない。
- 第9条 本会の経費は会費および寄付金とその他の収入をあてる。
- 第10条 会則の変更は総会の承認を得る必要がある。

院生・学部生の業績（2015.1～12）

【論文等】

- 于亜、齋藤鮎子 2015. 「餃子－山東から東北三省、そして日本へ」、『地理』、第60号10巻、48-55頁。
- 張旭 2015. 「清朝乾隆時代北京崇文地域の宗教建築の分布と景観－「乾隆京城全図」の分布から－」、『史泉』、第122号、34-48頁。
- 張立宇、2015. 「北京の都城構造における中軸線の歴史地理的考察」、『史泉』、第121号、1-13頁。

【口頭発表】

- 齋藤鮎子、「富士宮市における富士山と祈り－世界文化遺産「富士山」の構成資産を手掛かりに－」、関西大学東西学術研究所 研究例会（比較信仰文化研究班：「祈りの場」の諸相 その3）、関西大学児島惟謙館（2015年12月11日）。
- 張旭、「北京城における宗教建築の変遷－元、明、清時代の復原の方法をめぐって－」、第58回歴史地理学会大会、山形県立米沢女子短期大学（2015年6月27日）。
- 張立宇、「四川盆地・成都における都城の残存景観による復原の試み」、第58回歴史地理学会大会、山形県立米沢女子短期大学（2015年6月27日）。

清水紀宏,「土佐市波介川流域における標高データを用いた水害の分析」, 関西大学史学・地理学学会, 関西大学 (2015年12月5日).

直暁陽,「岸和田市における戦後70年間の農村と農業の変貌」, 関西大学史学・地理学学会, 関西大学 (2015年12月5日).

【ポスター発表】

齋藤鮎子, 清水紀宏, 直暁陽, 栄蓉, 小川諒也, 木下雄太, 迫田雅彦, 佐藤寛哲, 西田元気, 力石亜海, 森元一登, 山口翼,「土佐市における防災・産業の地理学的考察－地理学・地域環境学実習調査中間報告1－」, 関西大学史学・地理学学会, 関西大学 (2015年12月5日).

齋藤鮎子, 池田航大, 伊佐嘉真, 大西沙季, 戸高幸星, 森本翔, 松尾絢斗, 山下智美,「土佐市における巡礼・観光・市街地の地理学的考察－地理学・地域環境学実習調査中間報告2－」, 関西大学史学・地理学学会, 関西大学 (2015年12月5日).

教室だより

■地理学・地域環境学実習調査

2015年10月5日(月)～9日(金)の日程で, 高知県土佐市にて実習調査を行った。指導教員は野間, 松井。TA1名, 院生3名, 3回生15名で実施。調査内容は, 洪水災害・ハザードマップ, 農業, 漁業・水産加工, 伊野和紙製造, 四国遍路, 住民の生活行動であった。その成果は, 関西大学史学・地理学会 (2015年12月5日於: 関西大学) でポスター発表し, 2016年3月末には『高知県土佐市の地理』として刊行される。

■秋の日帰り巡検

2015年10月18日(日)に秋の日帰り巡検が開催された。この秋の日帰り巡検は, 今回から学部2回生配当の授業科目「地理学・地域環境学基礎演習」の授業の一貫としても位置付け, 多数の学生が参加することとなった。「草津市を地理学的視点で総合的に考える」をテーマに, 2回生が現地について発表するとともに, 大学院生, 教員も適宜現地説明をした。また, 現地訪問先の学芸員の方々にもご説明・ご案内をいただいた。教員2名, 卒業生1名, 学生33名が参加し, 充実した巡検となった。コースは JR 南草津駅～旧東海道～草津～滋賀県立琵琶湖博物館 (学芸員の橋本道範氏が講演)～湖周道路～JR 大津駅。JR 草津～JR 大津駅は貸し切りバス利用。

■ベトナム国家大学ハノイ理科大学・地理学部一行の本学地理学教室訪問

ベトナム国家大学ハノイ理科大学・地理学部から4名の教員が11月29日～12月7日の日程で来訪された。この間12月3日には“ADVANCED ABILITY ON USING RESEARCH EQUIPMENT AND APPLYING MODERN RESEARCH METHODOLOGIES FOR RESOURCES AND ENVIRONMENT MANAGEMENT”をテーマに, ワークショップが地理学実習室で開催された。その後, 教員, 大学院生を交えた懇親会を実施した。

■地理学研究会例会開催

2015年12月12日(土)15時～18時, 第1学舎A301教室にて, 地理学研究会例会が開催された。M1による土佐市での実習調査の中間報告の後に, 吉兼崇博(山口県和木町役場)「意外と関係がある地理学と公務員業務－山口県和木町役場の公務員の場合－」, 松本太(敬愛大学・非常勤講師)「ネパール・テライ低地における住居の気候環境」, 松井幸一(本学助教)「私の琉球研究」の発表が行われた。例会終了後, 関大正門前「ケイプ・コッド」にて懇親会が開催され, 現役生はもとより多くのOB/OGの参加を得て, 親交を深めることとなった。

■地理学研究会・地理学同窓会の再生検討会議の開催と会長の選出

2015年12月12日(土)13時30分～15時第1学舎4号館地理学実習室にて, 地理学研究会・地理学同窓会の再生検討会議を開催した。そして, 今後教員, 卒業生, 学生が一体となって, 活動を活発化するよう努力することが確認された。また, 新たな役員として地理学会会長を木庭元晴先生, 同窓会会長を渡邊登さんに就任していただくほか, 松井幸一先生には地理学研究会, 同窓会の事務局長を兼務いただくなどの役員案を策定した。同日開催した総会にて, 今後の地理学研究会・同窓会の運営・活動方針, 役員人事が承認された。

■教員の国外出張

伊東 理: 2016年3月4日(金)～17日(木), オセアニア都市の都市構造と都市政策に関する調査(シドニー市・オークランド市), 科学研究費申請補助金。野間晴雄: 2015年11月18日(水)～11月22日(日), フェエ文書データベースに関する打ち合わせ(ベトナム国フエ, ハノイ), 関西大学アジア文化研究センター経費。

河野通博先生の思い出

小松原 尚

私が教師になって30年余り、その折々にお世話になった先生方のご指導を思い出すことがある。河野通博先生も、そうした先生のお一人である。私が教師としての決断を迫られた時に、河野先生だったらどう考えられ、対処されるだろうか、と考えるのである。先生はわれわれ学生に対して、いつも穏やかに笑みを浮かべつつ、対応して下さった。今、その当時を振り返ると、「河野スマイル」の有り難さがわかってきた。

私は、1975年4月に岡山大学地理学教室に入学した。私の実家は農家で、5月になるとイチゴの収穫期になる。入学間もない教室の友人2人をわが家へイチゴ狩りに招待した。最盛期であり、イチゴは大量に採れた。昼食をはさんで食べたが、食べ盛りのわれわれをしても食べ切れなかった。大学まで持帰ることになった。大学に着くと、とりあえず河野先生の研究室に置き、1人が持帰った。当時、研究室のメンバーには鍵の所在が明らかにされており、先生の研究室はわれわれが必要な時に入ることができた。

さて、翌日、大学へ行くと一騒動持上っていた。当時、政治思想的に考え方の異なる学生の集団が、学内で対立し、犠牲者も出ていたことが後でわかった（今でも亡くなった学生の名前を覚えている。生きていれば私と同年である。長崎出身で理学部化学科所属であった）。その行方不明者を捜索中であった。われわれが持込んだイチゴの汁が袋の穴から滴って、先生の研究室まで続いていた。血痕と見間違えた職員が、死体が隠されているのでは、ということで、騒動になったのである。

もちろん死体などあるわけない。事務へ行き昨日のことを説明したが、鍵は取り上げられてしまったのである。ややあって、河野先生が大学に来られ、事情説明をした私を、叱るわけでもなく、「鍵は返してもらっておいだから」と淡々とおっしゃった。それにしてもこの時の先生の対応がスピーディだったのが印象に残っている。その時4年生だった中島茂さんからは、先生の研究室を学生が使えることの意味、信頼関係の大切さを説諭された。まったくその通りだと思った。

井上ひさしの作品の1つに『モッキンポット師の後始末』（講談社文庫）という小説がある。ミッション系の寮に寄留する学生たち、彼らが引起す騒動に苦々しく思いつつも師は黙々と後始末に奔走する。高校3年生の頃読んだこのストーリーの主人公に、私はその当時、不届きにも河野先生を重ね合わせたものである。甘くて美味しいイチゴを口にすると、この時のことを思い出し、ほろ苦い気持ちになる。

先生のわれわれに対する指導姿勢は明確であったと思

う。とにかく勉強でも何でもやってみよ。何か問題が生じたらそのときには一緒に次の策を考えていこう。ということだったと思う。そのご指導から私は、必ずしも答えのわかることばかりではないことが多いが、それを増やすことが大学の勉強だと思ったのである。記憶力、暗記力優先の中学、高校での教育を経てきたわれわれにとっては新鮮だった。わからないことがあってはいけないと考えてきたこれまでの勉強姿勢が180度変わったと思った。

私は4年生の前期まで、河野先生が関西大学に移られるまで、薫陶を受けることができた。大学院のない当時の地理学教室の環境ではあったが、私までほぼ繋がって大学で教育・研究に携わっている卒業生がいる。出身大学院は異なるが、学会などで何人会うと一緒に食事をすることがある。その時に話題になることが、学部時代になぜ大学院進学を考えたかということである。その一因を私なりに考えてみると、河野先生の学部におけるこうしたフレッシュ段階からの、学生に対する勉強に関する意識・動機付けの賜物ではないかと思うのである。

私も年を重ね還暦を迎える。そして、大学で学生を教える立場でもある。学生の主体性に任せるといえるのは一見、何もせず趨勢に委ねることと誤解されがちである。しかし、そうではない。あるミッションに対して、指導者は当初想定した結末とは異なるいくつかのケースを想定し、それぞれに対して方策を用意しておく必要がある。いつの時代にも、学生は教師が予想もしないことをすることがある。様々な失敗もある。それは、学生故になくはならないことかもしれない。そして、その時には、先生に初めてお会いした時を思いだし、落ち着いて、スマイルで対応するように努めている。もちろん、なかなか河野先生のようにはいかない。先生は既に鬼籍に入られて久しいが、学生時代の先生から得た学びの記憶は鮮明である。これからも一教師としての私にとって掛替えのない存在であるに違いない

※本稿は『河野通博先生を偲ぶ会追悼文集・資料集』（2010年9月26日）に掲載された小論に加筆・補正を施したものである。

（本学非常勤講師、奈良県立大学教授）

千里地理通信 第74号

2016年3月19日 発行

関西大学地理学研究会

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35

関西大学文学部地理学・地域環境学教室内
編集担当：伊東 理 清水紀宏

TEL：06-6368-1121（内線4890：大学院生室）

E-mail：kandaichiri@gmail.com

URL：http://www2.kansai-u.ac.jp/kugeoenv/

郵便振替：大阪00970-4-81149